音楽部会

県研究主題 楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案１　　提案者　　山本文恵（湘南三浦地区）

＜研究主題＞ 鑑賞における言語活動の充実を図った指導の工夫

１　提案内容

鑑賞活動は、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことを目標としている。この目標を達成するための手だてとして「言語活動の充実」を図り、鑑賞活動をより一層深めていくようにしたい。

（１）　３年生の取組

言語活動として「想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなど」を、評価規準に位置づけた。〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素を「感じるもと」と提示して、要素に着目して聴けるようにした。

［題材名］　様子を思いうかべて（５時間扱い）

［題材の目標］　音楽が表している情景や雰囲気を感じ取りながら聴いたり、歌ったりする。

［教材］　（鑑）「白鳥」　（表）「大きな古時計」

［成果］　「感じるもと」を提示し、要素に着目させて聴くことにより、よく考え感じながら聴き、言葉に表すことができた。

［課題］　「感じるもと」として７つの要素を提示したので、児童はすべての要素について聴き取らなければならないと思い、何を聴いたのか明確でなくなってしまった。１～２つの要素に絞った方が、もっと詳しく聴き取れたのではないか。

（２）　４年生の取組

３年時の課題をふまえ、①要素を焦点化、②要素の働きに自ら気付く工夫、③鑑賞ノートの工夫、④段階的な学習について改善して実践した。

［題材名］　音楽を味わおう（２時間扱い）

［題材の目標］　音楽を形づくっている要素を手がかりに楽曲の構造をつかみ、全体を味わって聴く。

［教材］　（鑑）「山の魔王の宮殿にて」

［成果］　「感じるもと」を強弱、速さ、音の重なりの３つに絞り鑑賞ノートに書くことにより、鑑賞の視点がはっきりし、ほとんどの児童が聴き取ることができた。主題の反復を数える活動を取り入れることで、児童自ら強弱や速度の変化に気付くことができた。

［課題］　発言や鑑賞ノートによる言語活動で見取りやすい児童がいる反面、感受性は豊かでも言語表現が苦手な児童もいる。児童の行動の様子なども合わせて、きめ細かく見取る必要がある。

2　協議内容

（1）　言語活動の充実について

①　「感じるもと」の提示について

常時掲示しておくことにより、児童に定着している。児童が音楽の言葉で発言したり、書いたりできるのがよい。授業の中で教師が何を感じてほしいのか、明確にもつことが大切である。鑑賞だけでなく、表現でも「感じるもと」を使っていきたい。

②　「鑑賞ノート」について

観点を絞った「鑑賞ノート」は、ねらいが明確でよい。感じたことを言葉にするのが難しい児童に、「かんしょうのヒント」の語彙の中から、ぴったりくる言葉を選ばせるのもよい。「鑑賞ノート」を書くタイミングや時間配分についても工夫したい。また、全体の板書についても計画的に行いたい。

（2）　要素を聴き取ることと、全体を味わって聴くことの兼ね合いについて

要素に分解してから楽曲のイメージをつかむのではなくて、楽曲のイメージをもって味わってから、そのからくりを要素としておさえる方法もある。あまり分析的にならずに、楽曲を聴きながらリズム打ちをしたり、体を動かしたり、楽しみながら音楽を全体として感じ取らせたい。言語活動と児童を追い込むのではなく、楽曲を楽しむという視点も大切にしていきたい。

3　まとめ

（1）　見える能力と見えにくい能力

音楽には、リコーダーや読譜など見える能力と、鑑賞などの見えにくい能力がある。見えにくい鑑賞の能力を見えるようにして評価していく、その一つの手だてとして、言語活動を充実させるという実践である。〔共通事項〕を焦点化させることによって、聴き取る力、感じ取る力を育てていきたい。何を聴き取らせたいのか、ねらいによって選曲や音源も吟味する必要がある。

（2）　音楽で確かめながら聴くこと

「何回くり返しているか」「ただくり返しているだけではない」などの発言を取り上げ、児童と一緒に、音楽で確かめながら聴く活動を取り入れるとよい。聴き取ったことを強弱やテンポの変化につなげて、聴き方を学ぶようにしていきたい。

（3）　発達段階に合った鑑賞の活動について

低学年では、鑑賞ノートを与えるのではなく、感じたこととその理由を結びつけて発言し、表情や様子などとも合わせて見取っていく。中学年では、友達との関わりの中で、思ったことを発言したり、友達の発言から自分の考えを広げたりしていきたい。高学年では、楽曲の魅力を紹介文にして友達に伝える活動などを通して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解させたい。

提案２　　提案者　齋藤　史成　（横須賀地区）

＜研究主題＞
思いや意図をもって表現（音楽づくり）する力を育成する学習指導の工夫
―「言葉のイメージから音楽をつくろう」（５年）の指導を通して ―

１　提案内容

草野心平の「ゆき」を教材に取り上げ、「音楽づくり」を通して、子どもが思いや意図をもち、意欲的に学習に取り組むために授業改善をした５年生の実践

（１）　題材目標

言葉と旋律の結びつきを感じ取りながら、楽しく音楽づくりをすることができる。

（２）　題材について

詩に表現をつけて音読したり、短い旋律をつけて歌ったりするなど、表現の仕方を工夫しながら、即興的な音楽づくりを行う。

（３）　授業の実際（各時間の子どもたちの様子がビデオで紹介された。）

第１時：詩のもつリズムや抑揚、詩全体のイメージを感じ取りながら、声の出し方をいろいろ変えて朗読した。（強弱をつける、輪唱、交互に、合唱など）
最初はクラス全体で行い、後半はグループで活動した。

第２時：個人で木琴や鉄琴など思い思いの楽器を選び、「ゆきふりつもる」に短い旋律をつくり、互いに聴き合った。

第３時：第１時と第２時の学習を生かしながら、グループごとに「しんしん」と「ゆきふりつもる」を併せて、詩全体としての作品表現に取り組んで発表した。

（４）　成果と課題

どうやったら詩における自分の思いや意図を表現できるのか、子どもたちが試行錯誤しながら、詩のイメージをつかみ、意欲的に「音楽づくり」の活動に取り組むことができた。

また、黒板に、右のようにカードを提示し、意図的に実際の音楽と結びつけながら活動することで、〔共通事項〕における「音楽を特徴付けている要素」と「音楽の仕組み」について意識しながら表現や鑑賞の各活動に取り組むことができた。

〈音楽のしくみ〉
- 反復
- 問いと答え
- 変化

〈音楽を特ちょうづけている要素〉
- 音色
- リズム
- 速度
- 旋律
- 強弱
- 拍の流れやフレーズ
- 音の重なり

ビデオや振り返りカードなどから子どもの学習過程の見取りを細かく行い、個の変容を捉えることができた。

「自分の思いを表現しやすそうな楽器 」という視点で楽器を選択させたが、鍵盤の見えないリコーダーを選択した子は０人で、結果的にはたくさんあった卓上木琴を選ぶ子どもたちが多数となってしまった。

「音楽づくり」に用いる楽器の選択をどうするか、また、長期にわたる「音楽づくり」の指導や記譜する力の育成、発想があっても表現が苦手な子への手立てなどが課題となった。

2　協議内容

どのようにイメージをもたせていったらよいのか、子どもたちが思いや意図をもって「音楽づくり」に取り組むにはどうしたらよいのか。

（1）　子どもたちの様子について

・３時間という短い時間で子どもたちはよく取り組んでいた。要素に着目して様々な朗読の仕方に挑戦し、イメージをふくらませる活動をとったので、それが生かされていた。
・子どもたちがよく発言していた。言語活動を取り入れている展開がよかった。
・一人一人が根拠をもって表現していた。
・友達がつくったふしを聴いて、すぐに歌うことができていた。

（2）　教師の支援について

・イメージをふくらませるための先生の声かけや励ましの言葉がけがよかった。
・毎時間、子どもたちの書いた振り返りカードを活用して個の見取りを行い、次時の活動に生かすことができた。

（3）　教材について

・なぜ「ゆき」を取り上げたのか。…９月の教科書教材である。
・時期的なことや自分の体験がないので果たしてどうか。…想像する世界でよいと考えて取り上げた。
・詩がよかったという意見も出された。

（4）　思いや意図をもって「音楽づくり」をするには

・つくらせたい音楽のイメージを指導者の方で、ある程度もっていることが大切なのではないか。その上で、子どもたちと共有していく、音楽としてよくなっていくことが大事。
・今回は一人一人が活動しやすい楽器を使って「音楽づくり」をしたが、題材目標に「詩を音読と歌で表現しよう」とあるので、歌で音楽づくりをすると、また違ってきたのではないか。
・思いや意図をもって活動できるところは「音楽づくり」のよさでもあるが、音楽として、どうつくりあげていったらよいのかが、これからの課題である。

3　まとめ

音楽づくりの指導に難しさを感じている教師が多いが、〔共通事項〕を手がかりに、音遊びやリズムリレー、即興的な表現などを日常の活動に取り入れ、それらをもとに、音を音楽に構成していくことが重要である。

4　（国）新学習指導要領の円滑な実施に向けた説明会について

・音楽科における、言語活動を取り入れた指導を工夫し、学習を充実させるために適切に取り入れることが大切である。
・教育課程実施上の課題と指導上の留意点について（年間指導計画・題材・音楽づくり等）
・題材の評価規準から具体の評価規準を設定しない場合もあり得る。
・１時間の授業の中で焦点をしぼって評価していくことが大切である。